

強風・豪雨に対する農作物等管理技術対策について

平成27年10月1日
埼玉県農林部

本日夕方から2日午前中にかけて大気の状態が非常に不安定となり、落雷や竜巻などの激しい突風、急な強い雨が予想されます。

この対策として、以下の農作物等管理技術対策を作成しましたので、参考にしてください。

共通事項

- 1 排水路や明渠の点検・整備を行い、ほ場の停滞水に備える。
- 2 風雨により茎葉等が損傷した場合は、病害虫の発生を防ぐため、薬剤防除を行う。

園芸用ハウス

- 1 園芸用ハウスでは、フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れたり、防風ネットで覆うなどして補強する。
特に、積雪で被害を受けたハウスや施工中のハウス、イチゴ等で天井部のみ被覆しているハウスは入念に補強する。
- 2 直前の防風対策
 - 出入り口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間からの風の吹込みを防ぐ。
 - 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
 - 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

水 稲

- 1 風雨に備えて早刈りした場合は、籾水分が高く急激な乾燥は玄米品質を低下させるので、籾水分が25%程度になるまでは送風のみで乾燥する。
- 2 倒伏した場合、穂発芽の発生が心配されるため、速やかに排水し、ほ場の乾燥を早める。また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。

大 豆

- 1 浸水したほ場は、滞水による根腐れを防ぐため、速やかに排水する。
- 2 泥水や倒伏で莢が汚損した場合は、病害虫防除の際に莢を洗い流すように薬剤散布を行う。

そ ば

- 1 ほ場の高温多湿条件は、根腐れを助長するので、停滞水の速やかな排水とほ場の乾燥に努める。

野 菜

◎露地なす

- 1 強風に備えて、V字仕立ての支柱や枝の誘引などについて点検・補強する。
- 2 風雨等により確実に商品価値が低下するとみられる果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。
- 3 停滞水に伴う根の活力低下により青枯病、半身萎凋病等が発生しやすいため、速やかな排水対策を徹底する。

◎施設きゅうり・トマト

- 1 低気圧通過後の急激な湿度低下による葉焼けを防止するため、施設の換気は徐々に行う。
- 2 施設の密閉や多湿により、きゅうりでは褐斑病、べと病、トマトでは疫病等が発生しやすいので、天候回復後、速やかに薬剤防除を行う。

◎いちご

- 1 ハウスへの浸水は、炭疽病や疫病等の発生が懸念されるので、天候回復後、速やかに薬剤防除を行う。また、速やかな排水に努め土壌の通気性を確保し、根の伸長を促進する。

◎ねぎ

- 1 強風による倒伏を防止するため、土寄せのできるものは早めを実施する。ただし、湿害に伴って軟腐病や白絹病の発生がみられるほ場では、暫く土寄せや追肥は避ける。
- 2 停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、ポンプ排水するなど速やかな排水に努める。
- 3 収穫期に達しているほ場では、高温多湿による軟腐病の被害が拡大する前に、作業が可能になりしだい速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。
- 4 天候回復後、軟腐病・白絹病・小菌核腐敗病等を対象に速やかに薬剤防除を行う。

◎やまといも

- 1 浸水すると腐敗の発生や肥大不良になるので、停滞水の速やかな排水に努める。
- 2 風雨により葉渋病や炭疽病の発生が懸念されるので、天候回復後に速やかに薬剤防除を行う。

◎ブロッコリー、キャベツ、はくさい

- 1 強風による倒伏を防止するため、土寄せのできるものは実施する。
- 2 風雨により軟腐病・べと病・黒腐病・黒斑細菌病の発生が懸念されるので、天候回復後、速やかに薬剤防除を行う。
- 3 天候回復後、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 4 土壌が流亡した場合は、株元に軽く土寄せを行って倒伏を防ぐ。
- 5 浸冠水の影響を受けやすいほ場では、周囲に排水溝を設置するなどして雨水

を強制的にほ場外へ排水する。

◎にんじん

- 1 浸水によりほ場の土壌が流亡した場合には、株元に軽く土寄せを行い倒伏を防ぐ。
- 2 降雨に伴う高温多湿により黒葉枯病の発生が懸念されるので、天候回復後、速やかに薬剤防除を行う。

◎ほうれんそう、こまつな、だいこん等

- 1 トンネル被覆資材等が強風などであおられないように点検・補強するとともに寒冷紗などのすそは確実に土中に埋める。
- 2 葉の損傷等が見られた場合には、天候回復後速やかに薬剤防除を行う。

果 樹

- 1 収穫できる果実は事前に収穫する。
- 2 棚や支柱、網などを補強し、上下の揺れを少なくする。
- 3 多目的防災網等が収納できる園では早急に収納する。
- 4 落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する。

花植木

- 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。
- 2 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。
- 3 破損した茎葉は、病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokuhenkou.html>